

大型クラゲ分布調査

(有害生物出現調査並びに有害生物出現情報収集・解析及び情報提供委託事業)

吉田太輔・沖野 晃

1. 大型クラゲ沖合域分布調査

(1) 調査方法

2018 (H30) 年 8 月 27 日～8 月 28 日に、調査船「島根丸」により LC ネット (網口の幅×高さが 10m×10m) を用いてエチゼンクラゲの調査を行った。また、ブリッジから目視調査を行った。

調査定点は図 1 のとおりで、LC ネットを水深 50m まで沈め、1 分間斜め曳きを行った後、巻き上げ速度毎秒 0.3m で揚網した。

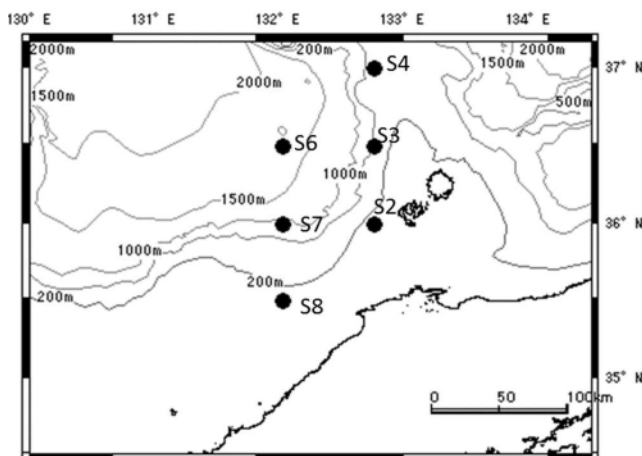


図 1 洋上分布調査定点

(2) 結果

全ての定点で LC ネットでは採集されず、目視においても確認できなかった (付表 1)。

2. 洋上目視調査

(1) 調査方法

7 月 31 日～8 月 1 日に調査船「島根丸」で船上から目視による調査を実施した。調査定点は図 2 のとおりで、2 マイルの距離を航走する間、船橋上両舷から目視されたエチゼンクラゲを大 (傘径 100cm 以上)、中 (傘径 50～100cm 未満) 小 (傘径 50cm 未満) のサイズ別に計数した。

また、8～12 月に漁業取締船「せいふう」により航行中に沿岸域のクラゲ来遊状況の目

視調査を行った。

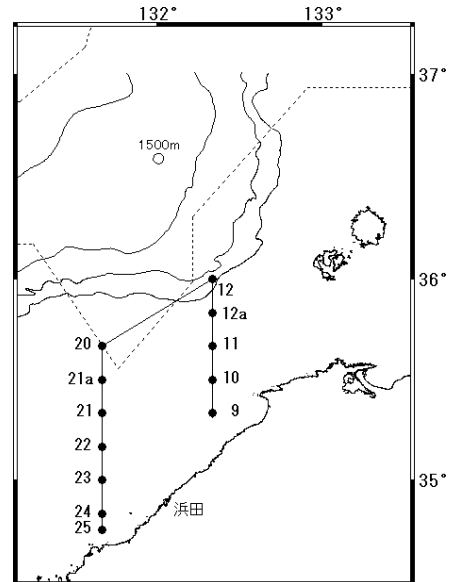


図 2 島根丸洋上目視調査定点

(2) 結果

「島根丸」調査では、全ての定点で大型クラゲを確認できなかった。また、「せいふう」においても確認できなかった (付表 2)。

3. 陸上調査

(1) 調査方法

6～9 月の間、各 JF しまねへ直接、もしくは各水産事務所を介して電話により情報を収集した。

(2) 結果

6～8 月において、主に定置網で大型クラゲの入網があったものの、数量は 1 日 1 ヶ統あたり数個程度と少なく、漁業被害も発生しなかった (付表 3)。

4. 研究成果

調査結果は JAFIC が実施している大型クラゲ出現情報にデータとして提供した。また、大型クラゲ情報として FAX とホームページ上で情報提供を行なった。